



その年齢差は60以上!



「遊」では、すべての指導者が日体協またはラグビー協会の資格を取得している。

# まさにガチンコ対決!



NPO法人  
さいたま市地域スポーツクラブ遊  
(埼玉県さいたま市)

不惑チームと中学生との息詰まる熱戦。



孫の敬太郎さんと一緒にクラブへ通う茂木勝彦さん。

## 子、孫と参加するラグビークラブ

3歳から80歳まで、NPO法人さいたま市地域スポーツクラブ遊(以下、「遊」)の掲げるスローガンは、明快だ。

市町村合併前の旧浦和市内ではもともと小中学生、社会人、40歳以上と、複数のラグビーチームがそれぞれ個別に活動していた。2003年、子どもから大人まで一貫したラグビー環境の必要性を感じていた市ラグビーフットボール連盟(飯塚博明理事長は、これらすべてのチームを統一。タイミング良く募集がかかった日体協総合型地域スポーツクラブ創設支援事業の助成を受け「遊」が立ち上げられた。

「遊」ができる前には社会人のチームが市内に11ありました。ところがその実態はというと、メンバーが15人集まらないところも少なくなかった。地域のラグビー環境をもっと整備し、充実させたい、と考えたのです。

「遊」では成人のトップチームを頂点とし、子どもから大人、高齢者までが



未就学児のチームはラグビー「あそび」に夢中。

ひとつとなったピラミッド型のクラブを志向し、年代ごとのカテゴリーに分けて活動を行っている。全国社会人クラブ選手権大会に出場することがトップチームの大きな目標だ。

「ジュニアたちが「大きくなったらトップチームに入りたい」と目指してくれるようなクラブでありたいですね」(飯塚理事長)

### 「遊」よりラグビーがしたいっ!

クラブ設立の大きなメリットは、活動場所が確保しやすくなることである。NPO法人格を取得したことで、クラブとして公共グラウンドの利用交渉にあたるのが可能となり、その結果、年間通じての優先利用が許諾された。以前は各チームともジプシーのように転々とグラウンドを移っていたが、「日曜日の午後にグラウンドに行けばラグビーができる」環境が整った。

このことは世代間の交流にも役立っている。未就学児から70歳を超える高齢者までが同じ場でラグビーを楽しむとあって、親と子、孫が連れだつてグラウンドを訪れ、共に汗を流すメンバーも少なくない。

不惑(40歳以上)チームに30年ちかく所属する茂木勝彦さん(67歳)は、ぜんそく気味だった孫の敬太郎く

ん(7歳)が、元気に楢円球を追いかける姿に目を細める。

「本当は今日も塾があつたらしいんだけど、「ラグビーがしたいっ」と言うもんだから。このまま競技を続けてくれれば嬉しいですね」

また、毎年9月にクラブが主催する「市民ラグビー祭」では60歳以上と中学1年生のチームが対決する。お互い遠慮は一切抜き、当たりに勝るシニアとスピードで優位に立つジュニアの真剣勝負は、見ごたえ十分だという。

総合型としての運営を視野に入れ、ソフトボールやゲートボールなど他種目の活動、また障害者交流センターでのボランティア活動を行っている「遊」。ただ現時点ではまずできることから手をつけていくことでスタッフの意見は一致している。

さいたま市といえばJリーグ・浦和レッズが本拠を置く。実は一時、浦和を派遣してラグビースクールを開講する話が持ち上がりかけた、と飯塚理事長。しかし参加費が高額にのぼるなどの問題から残念ながら提携が実現するに至らなかった。

「誰もが参加できるクラブでありたい」という「遊」の意気込みがうかがえるエピソードである。



2007年初蹴りに集まった「遊」のメンバー(前列右端が飯塚理事長)

### NPO法人スポーツクラブ遊 概要

- 設立(NPO認証)=2004年4月
- 会長=栗原義正
- 会員数=約230人(幼稚園・小学生100人、中学生30人、一般40人、40歳以上60人)
- 会費(月間)=100円
- ※保険、合宿等への参加料は別途。
- 実施種目=ラグビー、デフ(聴覚障害者)ラグビー、ソフトボール、ゲートボール
- 事務局=TEL.048-831-3226(飯塚博明)